

水道システムの地震被害・復旧予測

神戸大学工学部 正 員 高田 至郎

神戸大学大学院 学生員○飯田 泰司

1. はじめに 都市部に人口が集中している現代において、地震によって上水道施設が被害を受けることは、住民の生命、財産に重大な脅威を与える。このような状況からも、被災前における上水道の地震被害予測および予測結果に基づく復旧予測を行うことは、都市における地震防災を考える上で有用であると考えられる。

本研究では都市部における配水管網を対象とし、損傷確率マトリックスを用いたモンテカルロシミュレーションによって管路の被害予測を行い、その被害データをもとにしてシステムダイナミクス法により時刻歴復旧シミュレーションを行う。

2. 被害予測

(1) 解析手法 本研究においては、解析の対象となる地域を給水地域区画図に従ってメッシュに分割し、それぞれのメッシュを基本単位として図1に示す解析の流れに従って解析を行った。図1において想定地震とは仮定の規模、位置を持つ地震であり、想定地震による震度階の推定にはアテニュエーション式¹⁾を用いた。また地盤のひずみは、地盤速度振幅と見かけの波速により推定した。

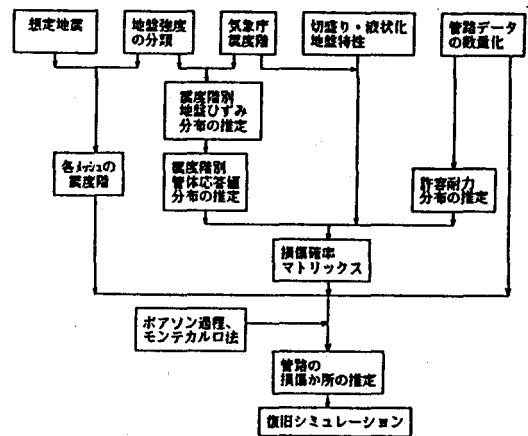


図1 解析の流れ

(2) 解析結果 想定地震として都心部において震度5から6を与える地震を選んだ場合の結果の一例を図2に示す。この図の黒く塗られたメッシュにおいて被害の発生が予測される。

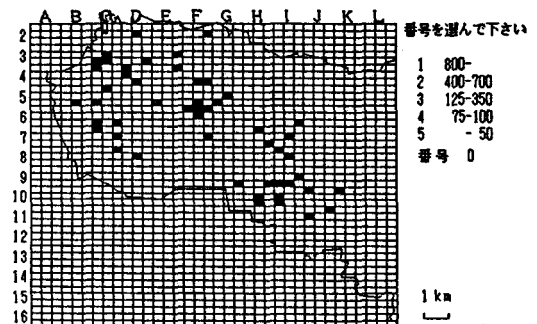


図2 被害分布

3. 復旧予測 復旧作業は多くの要因が作用しながら進行する。この状況を表現するために、本研究では復旧作業によって被害を解消する過程を一つのシステムとして捉え、システムダイナミクス法によって復旧過程をシミュレートする。

(1) サブシステム 損傷を受けた管路を修理する場合、被害地点に最も近いバ

Shiro TAKADA, Yasuji IIDA

バルブを閉じた後に修理を行う。このバルブの位置によって断水区域も推定できることから、本研究では修理のためのバルブ操作による断水区域を解析の最小単位とし、この区域における復旧過程をサブシステムと呼ぶ。複数のサブシステムによって全体のシステムが構成される。

(2) モデル化 復旧過程をモデル化したフローダイアグラムを図3に示す。各々のサブシステムは総人員数、総重機数、総資材量で結び付いている。なお今回の研究では作業効率に影響を与える要因のうち管径による影響のみが考慮されている。

このモデルに宮城県沖地震の被害データ²⁾を入力した結果、約110時間で管路の修理率が100%に達した。これは実際の復旧時間である7日間よりかなり短いが図3に示されるような復旧作業に影響を与える要因を数式で表現できれば実際の値に近いものが得られると思われる。

(3) シミュレーション結果 被害予測によって得られた被害データをもとに復旧シミュレーションを行った結果を図4に示す。今回のシミュレーションでは、被害地点の復旧に優先順位を設けることによって復旧戦略を考えた。また復旧率は時間毎の供給可能戸数によって表現した。図4は優先順位として被害規模による順位と管径による順位を考えたものである。

4. おわりに 本研究では想定地震による上水道の被害、復旧予測をパーソナル・コンピュータ上で行えるプログラムを作成し、実行した結果つぎのような結果が得られた。地震被害予測については、地域別では沈下の発生する可能性のある地域に多く、管種別では印ろう継手の鑄鉄管と塩化ビニル管に多く被害が発生している。また復旧シミュレーションでは被害の状況によっては、従来の復旧方針（配水池に近い所から管径の大きい順に復旧を行う）は必ずしも最良の復旧方針ではないことがわかった。

参考文献 1) H. Kameda, M. Sugito, H. Goto: "Microzonation and Simulation of Spatially Correlated Earthquake Motions", Proc. Third International Microzonation Conference, 1982, pp. 1463-1474

2) 日本建築学会: 「1978年 宮城県沖地震災害調査報告」、1980

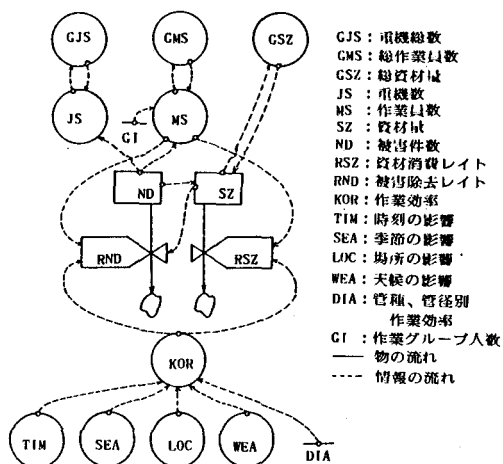


図3 モデルのフローダイアグラム

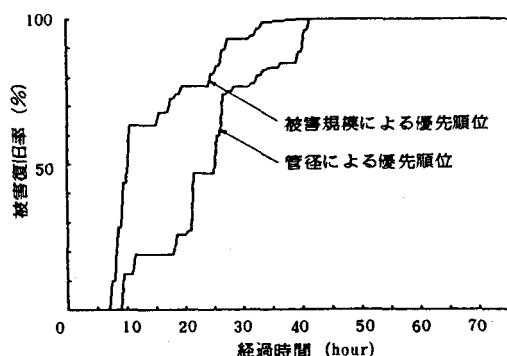


図4 被害復旧率曲線